

建築版	施工段階 竣工前 受電前	設備工事： 受電に向けて	電気	○	設備工事 ポイントシート (8-1)
			空調	—	
			衛生	—	
			その他	—	

電気設備に電気を通る受電日は、建物の竣工前の最重要なポイント日で、竣工日から逆算してある程度余裕を持って決めた時期に行われないと、竣工に間に合わなくなります。電気設備を始め、設備工事だけでなく、建築工事の進捗次第で受電日が左右されるため、日々の工程調整が重要です。

ここでは、受電までに完了しておかなければならない、設備・建築工事のポイントを説明します。

ポイント

- 受電日は、設備・建築工事の進捗予定と竣工日から早めに予定日を決定し、間に合わせます。
 - ・ 受電ができないと、電気設備に電力が供給されず、その後の工程に大きな影響が出ます。
 - ・ 受電に必要な受変電設備や配線、照明器具設置、内装工事などが完了しているか確認しましょう。
- 感電防止安全対策の実施
 - ・ 受電後は、電気工事関係者以外の感電事故を防止する必要があり、電気室やEPSは施錠ができるまで建築工事を進めておきます。
- 電気設備工事だけでなく、建築工事も工程順守が必須
 - ・ 電気設備工事に必要な間仕切や扉設置、天井仕上などの建築工事も完了していないと、受電はできません。
 - ・ 受電前の受変電設備の保護協調や各種試験検査が実施済みでなければなりません。
 - ・ 設備担当者は、完成後の電気主任技術者、電力会社との確認打合せが必要で、建築担当者も調整に加わりましょう。
 - ・ 各工事最遅日と受電後の必要日数から受電日を決定します。



受変電設備の例

先輩アドバイス

- ・ 受電成否は、電気設備だけによるものでなく、全体の工事工程の重要なマイルストーンです。電気設備関係の部屋やシャフトの間仕切や吸遮音仕上、空調機械設備や昇降機など電力で稼働する機器の設置、天井照明設置や給排水設備などほぼ全ての工事を完了させておく必要があります。この日から竣工に向かって残された工事を終えることになります。
- ・ 全工事担当者は、受電日までに完了していないことを確認します。



受変電設備内部の例

チェック項目

- 受変電設備の試験、検査項目と実施結果の確認は問題ないですか。
参考：耐圧試験、絶縁試験、リレー試験、総合連動試験、警報機器稼働試験
- 受電時の作業手順書の確認など、設備担当者並びに関係する建築担当者も電気主任技術者との事前確認は問題ないですか。
- 電力会社との作業区分についての事前打合せは、問題ないですか。
- 受変電設備内部の内装、清掃、整線など実施状況は問題ないですか。

失敗すると...

- ・ 受電後の送電が遅れると、工事全体の試運転調整工程など竣工までの工期に大きな影響が出ます。

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
		○	—	○	○	—	—	—	—
備考	参 考 文 献 :						初版発行	2020年12月	
							改訂		